

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870201286
法人名	社会福祉法人 日親会
事業所名	グループホーム ラ・ファミーユ
所在地	愛媛県今治市菊間町浜1453番地1
自己評価作成日	平成29年1月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日親会理念の下、グループホームの理念である『笑顔』ということ、心がける様にしています。職員が笑顔で関わることで、利用者様も笑顔になり、さらに周囲も笑顔になるように職員全員で協力・努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●外観は南欧風で、庭には彫像が配されている。玄関には、1月の行事予定が掲示されていた。事業所内は、掃除が行き届いており、2階ユニットには天窓もあり、明るく清潔感がある。利用者として作成した季節の壁画や折り紙、行事の際の写真等が飾られていた。
●利用者ごとに設けられた封筒に、職員がケアについての提案や気づき等を投入し、毎月のユニット毎のミーティング時には、それらをもとにして話し合いを行っている。
●調査訪問時、職員は、食事介助や服薬支援等において、笑顔で先ずは「○○さん」と名前を呼んでから言葉をかけていた。又、丁寧で分かりやすい言葉遣いで対応していた。利用者個々に、編み物やゴミ出し、掃除、シーツ交換等、役割や出番を作って支援している。月に1度の手作りおやつの際には、おはぎを丸めたり、パフェを盛り付ける等、できることを支援している。訪問時、職員と洗濯物を干したり、運んだりする利用者がみられた。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	r			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職 員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ラ・ファミーユ

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏 名 阿野 伊里子

評価完了日 平成 29年 1月 2日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 施設理念である『親愛』『共生』『向上』のもと、職員皆で『笑顔』をグループホームの目標・指針としました。朝の申し送り時にそれらを唱和し、職員はどんなときも笑顔で職務できるように、また利用者様が笑顔でいられるようにと取り組んでいます。	
			(外部評価)	
			開設時に、職員で話し合っって掲げた理念「笑顔」のもと、管理者と職員は、互いに「笑顔で行くよ」等と声をかけあって、日々のケアに取り組んでいる。理念は、居間に掲示されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地元中学校の職場体験の受け入れ。小学校の運動会への参加。地方祭りで御神輿やお供馬を招いての交流、お祭りの現地での見学。施設の行事などに、地域の人を招き交流しています。	
			(外部評価)	
			法人代表者は地元出身ということもあり、地域との関係性を大切にしており、地域行事や町内の清掃活動、小・中学校との交流、ボランティアの来訪等、継続的に地域とのつきあいがある。今後は、より気軽に地域住民と行き来できるよう、取り組みたいと話していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で認知症についての話し合いをしますが、実際に地域の人に向けて活かせることはできていません。交流した方から質問があれば、応じるようにしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 評価への取組み状況等について報告や話 し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価) 運営推進会議で意見や要望を、ミーティングで取り上 げ、話し合い、よりよくなるようにサービス向上に活かしていま す。	
			(外部評価) 会議は、17時30分から併設のデイルームにて、家族や地域 の元町会議員及びPTA会長等が出席し、事業所の取組み や利用者の現状、職員の研修、異動等を伝えて意見交換を 行っている。認知症や感染症、AEDの使用法、サービス評 価等についてプリントを配布して、皆で学ぶ機会にもなっ ている。家族への案内は特定の家族のみとなっており、会議内 容の報告についてもなされていない。	多くの家族や地域住民に出席してもらいやすいよう、次回の 会議から、事業所の居間で、15時からの開催に変更するこ とを予定している。又、利用者や現場職員の参加等も検討し ていた。今後さらに、家族や地域のいろいろな方達との「き ずな」を深められるよう、会議を活かして取組みをすすめて いってほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでい る	(自己評価) 運営推進会議に出席していただいている支所の職員と情報 交換するようになっています。また、分からないことが あれば、市役所に連絡し、教えて頂いています。また、今治 市主催の研修にも積極的に参加し、情報を得るようにしてい ます。	
			(外部評価) 運営推進会議時、市の担当職員からは運営推進会議の目 的等、議題に沿って適宜アドバイスや説明がある。2ヶ月に1 度開催されている「今治市グループホーム交流会」には、毎 回、管理者及び職員が出席し、情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしないケアに取り組んでいます。ケアの方法で拘 束に関わる意見が上がれば、その都度話し合いを行ってい ます。また、法人全体で、拘束についての勉強会も開催したり しています。	
			(外部評価) 各ユニットの入り口は、開閉時にチャイムが鳴るようになって いる。昨年、行方不明者が1名あったことから、現在、玄関は 内側からロックしており、職員が暗証番号を入力して開錠す るようになっているが、利用者の状態をみながら検討してい きたいと考えている。今後も、施錠することの弊害について 認識し、「利用者にとってどうか」という視点で話し合いを重 ね、利用者の立場に立ったケアを目指していってほしい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティングで随時話し合いをおこなっています。実際に介護の現場で、介護の仕方や、言葉使い、表情など気になる行為があった場合は、お互いに声を掛け合い、フォローするようにしています。また、入浴時などに身体の状態を確認し、異常があれば上司報告・申し送りなどし、防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 実際に後見人制度を利用されている方もいらっしゃったので、ミーティング時などに簡単に説明しています。また、必要性のある利用者様の家族様に、こういうサービスもあることを説明させてもらっています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 本人様と家族様に施設見学をしていただき、契約書及び重要事項説明書を説明しています。本人様・家族様・の要望や不安・疑問などをよく聞き、話し合い、理解・納得していただいています。また、後日に不明な点が出てきた場合も、その都度説明、話し合いを行うようにしています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族様などから管理者や職員・グループホーム自体への意見・苦情などがあれば、面会時や電話などで伝えていただき、速やかに対処するように心がけています。直接伝えられない方の意見・苦情も拾い上げられるように、グループホームの玄関に意見箱を設置して対応しています。 (外部評価) 毎月、担当職員が利用者の近況等を手紙で知らせ、些細なことでもショートメールや電話で連絡しており、家族からは「よくしてもらっている」「お任せします」等の声が多い。今後は、新しい取り組みとして、定期的に家族会を実施し、家族の意見や要望を聞く機会を作っていきたいと考えている。法人代表者は「これからも家族の声なき声に耳を傾けていきたい」と話していた。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティング時に意見があがった場合は、代表者に相談したり、管理者会時に意見として提案しています。運営上必要なことや活用可能なことは、運営に反映させていけるようにしています。反映されない場合も、その理由を説明するようにしています。また、年に数回代表者と面談する機会を設けており、直接話をする機会も設けています。	
			(外部評価)	
			法人代表者とは年2回、個人面談を実施しており、昨年からはストレスチェックも行い、働きやすい環境作りに取り組んでいる。28年度は、内部研修として外部講師による「医療福祉実務能力向上研修」を毎月実施し、又、外部研修の受講も推進して職員のスキルアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年に2回自己評価を各自行い、自己評価をもとに管理者が評価を行い、さらにその結果を代表者が評価して賞与及び昇給に反映するようになっています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修案内などは回覧し、希望者は参加できるように勤務を調整したりしています。職員にお勧めの研修があれば、受講を勧めることもあります。28年度は『医療福祉実務能力向上研修』として認知症についての研修を、外部の講師のもと施設で毎月開催し、グループホームの職員は全員参加しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 『今治市グループホーム交流会』に入会しており、積極的に2月に1度の研修に参加するようにしています。今後は交流の場が広がるようにと思っています。また、入居者を通じて関わりができたほかの施設の相談員や居宅介護支援事業所のケアマネとも、関係を維持できるように努めるようにしています。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に必ず本人様と面談し、本人様と話をする時間を多く持つようにしています。また、施設にも見学に来ていただき、実際に見て、職員などとも触れ合ってもらいながら、本人様の不安を探り、不安解消に努めています。また、家族様からも本人様の生活歴などを教えてもらうようにしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が 困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前から家族様とも必ず面談し、困っていることや不安、 要望などの話をよく聞くようにしています(状況によっては、本 人様のいないところで)。それにより、よりよい対応方法を一 緒に考えたりしています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族 等が「その時」まず必要としている支援を見極 め、他のサービス利用も含めた対応に努めてい る	(自己評価) 相談内容に応じて、当法人内での他の事業所のサービ スや、他の介護サービスの説明も行い、本人様や家族様 にとってよりよい方法を検討、紹介しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	(自己評価) 日常生活内で洗濯や掃除などできることは一緒におこな ってもらっています。また、農作業などは利用者様から指導 してもらったり、得意な分野の知識をいろいろ話してもら ったり、助けてもらっています。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者様の日々の様子やエピソードを伝え、共有するよ うにしています。困ったことがあれば入居前はどのような か、どのような対応したかなど教えてもらったり、面会や 電話をお願いしたりしています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めてい る	(自己評価) 利用者様の希望があれば、家族様とも相談しながら友人 などの顔なじみの方との電話や、面会も実施しています。ま た、外出行事で出かけた際などに思い出の場所へ行ったり、 近くを通ったときに話題に出したりしています。 (外部評価) 利用者の友人が来訪した場合は、椅子やお茶を用意して居 室でゆっくり過ごせるよう配慮している。家族と外出したり、 外泊したりする際には、対応のポイント等を伝えて支援して いる。通院の際に、地域の顔馴染みの方と話すことを楽し みにしている利用者もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係で、職員一人ひとりが気付いたことがあればミーティングにもちより、職員全員で共有しています。それによりトラブル発生を防いだり、よりよい関係が築けるように席を替えたりなどしています。	
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用終了前から本人様や家族様の相談に乗るようにしています。終了後も家族様などに何かあれば相談に乗ることを伝え、他の介護サービスへ紹介・仲介を行うこともあります。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 自分の思いを伝えられる方には伝えてもらえるように心がけていますが、それが本人の本心かどうかとも考えるようにしています。また、普段から本人が言われていることや、生活歴なども考慮しながら職員で検討しています。 (外部評価) 入居時には、事前調査対応記録表にて、日中の過ごし方や生活歴、趣味等について情報収集して全体像を把握している。利用者ごとに設けられた封筒に、職員がケアについての提案や気づき等を投入し、毎月のユニット毎のミーティング時には、それらをもとにして話し合いを行っている。管理者は、今後さらに、日々の暮らしでのかわりや会話等から得た情報を蓄積できるよう、アセスメントの工夫を図りたいと話していた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居まえにはかならず本人様や家族様から生活歴や馴染みのものなどの話を聞き取りしています。他のサービスを利用していた場合は、その事業所からも情報を頂いたりしています。また、入居後も新たな発見があった場合は、本人様や家族様に聞き、職員全員で共有するようにしています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居後一月は、一日の過ごし方や、日常生活の癖などを特に細かく記録して、職員全員が把握できるようにしています。また、普段と様子が異なったりした場合も記録すると同時に、申し送るようにしています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			グループホームで安心して生活できるように、本人様・家族様・職員の意見を取り入れ、本人様の思いに沿った介護計画を作成できるように努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			毎月の会議にてモニタリングを実施し、6ヶ月～1年毎の介護計画の見直しにつなげている。今後はさらに、介護計画に沿って対応、実践できたか、その結果どうだったか等、モニタリングにつながるような介護記録の工夫を重ね、さらに現状に即した支援に取り組んでほしい。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			事業所内で対応できることと、隣接する施設で対応出来ることに関しては、家族様と相談し必要に応じて柔軟に対応しています。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			大きな施設行事の際に、民生委員、婦人部・地域のボランティアグループが手伝いに来てくださっています。また、地域の小学校の運動会に参加したり、中学校の生徒さんがイベントとしてきてくれることもあります。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時に主治医について、協力医療機関の医師に変更するかなど、本人様や家族様の希望に合わせて話し合っています。協力医療機関の場合は、月に2回の往診やそれ以外の受診時にも付き添い支援しています。他の医療機関の場合も、保険外で職員が対応したり、家族様が行く場合も状態が分かるように家族に報告するなどして連携するようにしています。	
			(外部評価) 平成27年12月から、協力医療機関を近隣の医療機関に変更したことから、夜間対応も可能になり、より連携が深まり、利用者や家族の安心につながっている。年に1度、利用者全員に健康診断を行ったり、毎週月曜日には酸素濃度を測定する等、看護師資格の職員が中心となって、利用者の健康管理に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師は出勤時は毎日利用者様の状態の申し送りを、介護職から受けるようにしています。何か異常があった場合もその都度連絡、相談し適切な対応が出来るように支援しています。時には隣の系列施設の看護師や、協力医療機関の看護師とも相談・連携しています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には病院に本人様の情報を提供し、円滑に入院加療が出来るように連携しています。また、入院期間中も、家族様や、病院の相談員や看護師などから情報をもらい、退院時期などの相談や退院後の対応について検討するようにしています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合や終末期についてのあり方は、入居時に説明しています。実際にその状況になった場合は受け入れ先が決まるまでは当施設で対応します。終末期であっても、医療行為を伴わない場合は、緊急時には協力医療機関が対応することを、医師・家族・職員で話し合ったのちに、連携しながら出来る限り施設で対応することもあります。	
			(外部評価) 入居の際に「介護3になったら特別養護老人ホームに入居したい」と希望する家族や、特養を申し込んでから入居するケースもある。又、「最期までここで過ごしたい」と希望する利用者、家族もある。法人代表者は「法人として看取りはしない方針であるが、これからは見直す必要がある」と話していた。今後さらに、利用者の希望に沿った支援ができるような体制作りをすすめてほしい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 『緊急対応マニュアル』を台所の冷蔵庫に設置し、誰でもすぐに閲覧できるようにしています。不定期ですが、応急手当や心肺蘇生、AEDの使用方法などの研修会も行ったり、職員が個人で研修に参加したりしています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) いろいろな災害を想定した避難訓練を定期的実施しています。以前は地域の消防団の方にも参加していただくことがあったが、最近はなく、再度協力体制の見直しや呼びかけが必要と思っています。 (外部評価) 年に2回、併施設設合同で避難訓練を実施している。昨年は、土砂災害と夜間想定で利用者也参加して行った。事業所は、地域の福祉避難場所であり、AEDも設置している。今後、運営推進会議で話し合ったり、地域の訓練に参加する等、地域との連携体制の充実に取り組んでほしい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ミーティングや研修などで利用者様に対する言葉掛け・言葉使いについて話し合っています。また、利用者様の人格の尊重が出来ていない場合やプライバシーを損ねる、不適切と思われる場面があれば、職員間でお互いに声を掛け合い、注意するようにしています。 (外部評価) 調査訪問時、職員は、食事介助や服薬支援等において、笑顔で先ずは「○○さん」と名前を呼んでから言葉をかけていた。又、丁寧に分かりやすい言葉遣いで対応していた。利用者個々に、編み物やゴミ出し、掃除、シーツ交換等、役割や出番を作って支援している。月に1度の手作りおやつの際には、おはぎを丸めたり、パフェを盛り付ける等、できることを支援している。訪問時、職員と洗濯物を干したり、運んだりする利用者がみられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の理解力に応じて会話するように心がけ、本人の思いの表出や自己決定が出来るように、人それぞれ質問形態を変えるようにしています。意思を表出できない方の場合も、それまでの様子や表情などを見て汲み取る努力をしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) すべてが希望通りとはいきませんが、本人様が希望すれば散歩に行ったり、時間を変更したりなどの対応をして、出来る限り希望に沿った暮らしが出来るように努めています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 理容・美容に関しては、本人様や家族様の希望に沿って散髪場所や髪型など対応しています。女性で、化粧をされる方は、職員も協力して対応しています。男性のひげも不精ひげにならない様に、声掛け、必要によっては介助しています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の時間が苦痛にならないように、本人様のレベルや希望に合わせた食事形態で食べられるようにしています。献立によっては、苦手な方は別メニューで対応しています。食事は職員も利用者様と献立の話などをしながら一緒に食べる様にしています。片付けに関しては出来る方に、台拭きや食器洗い、掃き掃除などを一緒にしてもらっています。 (外部評価) 施設の厨房で調理されたものを事業所で盛り付けて配膳し、ご飯は事業所で炊いている。職員がホワイトボードに献立を書いて利用者者に知らせており、「昼は肉だったから、夜は魚かな」等と食事の話題を会話に採り入れている。食事中はテレビは消して歌を流し、職員も同じものを食べながら食事介助等を行っていた。湯呑や茶碗、箸は利用者個々に使い慣れたものを使用している。毎月の施設合同の給食委員会には管理者が出席し、利用者の嗜好や食材の切り方等、要望を伝えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 併設施設の厨房栄養士が、栄養バランスを考え、献立をたててくれています。飲み物に関しては、いろいろな飲み物準備し、出すようにしています。食事量や水分量に関しては、本人や医師などとも相談しながら、様子を見て調節しています。夏場には脱水に気をつけ、水分量を増やすように心がけています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後に利用者様の状態に合わせて、必要に応じて介助しながら口腔ケアを行っています。夜間は義歯を外してもらい、定期的に義歯洗浄剤につけます。また、必要な方は月に一度歯科往診を受け、歯石取りなどの処置を受けています。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄のパターンをチェックし、それに合ったトイレ誘導・介助をおこない、トイレでの排泄を目指しています。常に紙パンツやパッド利用から布パンツに変更できないか検討する様にし、可能ならばその方向に向かうように支援しています。	
			(外部評価) 日中は、トイレで排泄できるよう支援している。居室と居室の間に車いす対応のトイレが設置されており、各ユニットに4ヶ所あり、利用者個々に使い慣れたトイレを使用して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 10時のおやつは牛乳やヨーグルトなどの乳製品にしています。毎朝ラジオ体操を行い、運動する様に心がけています。便秘の方は薬もを調節しながら服用してもらっていますが、水分量を多くするように心がけたり、トイレ誘導時に力むように声掛け、マッサージなども行っています。	
			(外部評価) 入浴の曜日は決まっていますが、順番についてはその都度職員が配慮して決めています。バイタルに異常があった場合も、様子を見て再検し、なるべく入れるように心がけています。体調異常などで入浴できなかった場合は、翌日に入浴を勧めたり、清拭などで対応しています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の曜日は決まっていますが、順番についてはその都度職員が配慮して決めています。バイタルに異常があった場合も、様子を見て再検し、なるべく入れるように心がけています。体調異常などで入浴できなかった場合は、翌日に入浴を勧めたり、清拭などで対応しています。	
			(外部評価) 利用者個々に2日に1回、午前中に入浴できるように支援している。お湯は一人ひとり張り替えて気持ちよく入浴できるよう支援している。浴槽は四方から介助できるように設置されており、すのこ台を置いて利用者が浴槽を出入りしやすいよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 消灯時間は21時としていますが、遅くまで起きていたい方は眠くなるまでフロアで過ごしてもらってもいいようにしています。また、休息も本人様の具合や体力なども考慮し、様子を見て必要と感じた場合は、声掛け、誘導してすすめています。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師が中心になって、薬の管理をしています。各利用者様カルテの中に、薬情報もファイルしており、いつでも確認できるようにしています。また、薬の変更などがあった場合はその旨と注意点があればそれを、職員に申し送るようにしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 事前に得た情報や最近興味を持っていることなどを職員間で意見をだし、本人様が興味を引くようなレク活動に誘導しています。また、本人様が出来そうな家事仕事や作業などを選び、それをしてもらっています。作業をしてもらった後は、感謝の言葉を添える様にしています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外に行きたいと要望がある方には、なるべく応じられるように心がけてます。また、話題の中にどこそこに行きたいなど出てくることが多い場合は、家族様にも相談し、可能な限り家族様とも協力しながら対応するようにしています。 (外部評価) 毎日のように散歩する利用者があり、調査訪問時にも職員と一緒に出かけていた。火曜日の移動スーパー、水曜日の移動パン屋を利用できるよう支援している。春夏秋冬の衣替えの時期に、衣料店が出張して施設内で販売しており、家族も利用することがある。初詣やかかわら館、いちご狩りに出かけられるよう支援しているが、管理者は、外出の機会が少なくなっていることを感じていた。	地域の過疎化に伴い、難しいこともあるが、地域の中に利用者がちょっと出かけて過ごせるような場所を開拓したり、利用者個々の思い出の場所や馴染みの場所を探って出かけたりして、外出することで気分転換を図り、暮らしの広がりや意欲につなげてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金がないと落ち着かな方は、家族様と相談し、なくなっても大丈夫な額を持ってもらっています。本人様が支払うつもりでいるときはそこから払っていただき、後で補充したりしています。殆どの利用者様は施設で小遣いを預かり、本人様の要望や必要に応じて家族様に相談し、使用しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居時に本人様が希望した場合に、電話をしてよいところを聞くようにしています。実際に希望されたときは職員補助のもと、掛けられています。手紙も本人様や家族の要望に沿って対応しています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			玄関やフロアーの壁などに、利用者様と職員とで作成した作品を掲示しています。共有空間は広く、多目的に使うことが出来ます。空調設備や床暖房などの設備があるので、その時々に応じた温度など職員が配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(外部評価)	
			外観は南欧風で、庭には彫像が配されている。玄関には、1月の行事予定が掲示されていた。事業所内は、掃除が行き届いており、2階ユニットには天窓もあり、明るく清潔感がある。利用者で作成した季節の壁画や折り紙、行事の際の写真等が飾られていた。体験学習の中学生の「介護の大切さと厳しさを学ぶことができました」というメッセージや職員写真とプロフィールも掲示されていた。調査訪問時、利用者は新聞を読んだり、福笑いをしたり、ソファでテレビを見たり、それぞれに過ごしていた。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			本人様に馴染みのあるものを持ってきていただき、家族様・本人様・職員とで相談し、安全に居心地よく生活できるように配置したり、飾り付けれる様にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(外部評価)	
			各居室に洗面台が設置されており、髭を剃ったり、小物を洗濯したりする利用者もある。ベッドに横になってテレビを見る方もある。敬老会やクリスマス会、誕生会に贈られた職員からのメッセージや写真が貼られていた。利用者手編みの座布団カバーや、自身で作った洋服を見せてくれた利用者もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)	
			建物内はバリアフリーで立てられており、フロアーには手すりも付いており、歩行が弱い方や車椅子で自走が出来る方なども一人で移動できるようになっています。トイレの場所が分かりにくい方には、入り口にトイレと大きく書き、一人でも行ける様に対応しています。	